

人口・社会統計部会の審議状況について（報告）

〔生命表関係〕

## 第 24 回人口・社会統計部会結果概要（未定稿）

1 日 時 平成 22 年 12 月 6 日（月） 15:05～16:35

2 場 所 総務省第 2 庁舎 6 階特別会議室

### 3 出席者

（委員）阿藤部会長、津谷部会長代理、安部委員、小暮専門委員

（審議協力者）総務省、文部科学省、厚生労働省、国立社会保障・人口問題研究所、農林水産省、  
経済産業省、国土交通省、東京都、神奈川県

（事務局）内閣府統計委員会担当室、総務省政策統括官室

（統計作成者）厚生労働省

4 議 題 生命表の基幹統計としての指定について

### 5 結果概要

#### （1）生命表の基幹統計化の適否に関する審議

総務省政策統括官室から、諮問理由について説明された後、生命表の基幹統計化の適否について審議が行われた結果、基幹統計として指定することは適当であるとされた。

#### （2）生命表を基幹統計とするに当たっての今後の在り方に関する審議

厚生労働省から、生命表の基幹統計化に当たっての主な論点に対する回答がなされた後、各論点について審議が行われた。

審議の概要は、以下のとおり。

ア 今回指定の対象とされている完全生命表及び簡易生命表に関して

（ア）急速な高齢化に伴う死亡率の推計方法の改善又は検討の余地について

○ 高齢者の死亡率の推計方法について検討するのは良いが、具体的にどのような方法を考えているのか。

→ 具体的な検討は、平成 22 年国勢調査の結果を見てみないと結論が出せないが、ゴンパーツ・メーカム式により行うことも選択肢の一つと考えている。

○ 日本の急速な高齢化については、世界の研究者などの注目度も非常に高いことから、今後の高齢者に係る死亡率の推計方法については、今回の基幹統計化に当たり、今後の課題として十分な検討をしていただきたい。

（イ）簡易生命表の作成に用いる人口動態統計の概数値の使用の是非について

○ 確定値と概数値でほとんど誤差が無いのであれば、確定値が出るまで 3 か月待つ必要はなく、従来どおり概数値により作成し、速やかに公表することが望ましい。

（ウ）原データ及び作成方法についての詳細な情報提供について

○ 原データ及び作成方法については、既に詳細に情報提供が行われているところであるが、政府統計に関する情報公開という精神からも、今後、作成方法等を変更した場合には、引き続き的確に情報公開が行われる必要がある。

(エ) 男女計の生命表の作成・公表の必要性について

- 生命表を男女別に作成することは当然であるが、国際連合や世界保健機関では、各国の男女計を独自に作成しており、作成にそれほど労力はかからないと思われるので、男女計も作成しても良いと思う。
- 国際比較上は男女計も重要と思うが、原データと公式があれば作成可能である。男女を一緒にして死亡率を語ることはオーソドックスではないので、男女計を出す必要性は高くないと考える。
- 一般の方の利便性からは、男女計もあっても良いが、なくても大きな支障はない。
- 原データと公式を示しても、専門家でないと算定が難しいことは事実。男女計について、基幹統計に含めるという意味ではなく、参考表として追加してもよいのではないか。
- 厚生労働省において、次回までに、国際的な男女計の作成状況について調べるとともに、基幹統計としないまでも、今後、参考表として作成できないかなどの点について検討し、回答いただきたい。

イ 完全生命表及び簡易生命表に関連する他統計に関して

(ア) 地域別生命表(都道府県別生命表、市区町村生命表)に関する将来の基幹統計化について

- 地域間の人口移動について、どのように扱われているか。  
→ 地域間移動は考慮していない。国勢調査(5年に一度)の人口(10月1日現在)を基に算出している。
- 市町村表においては、個々の市町村について独立して作成するのではなく、近隣市町村の情報を入れて作成する必要がある。  
→ ベイズ推定は、当該市町村のみではなく、周辺の市町村や属する県の情報も加味して推計している。
- 地域別生命表については、さらに精度の高い数値が得られるよう研究してほしい。

(イ) 死因別死亡確率等に関する将来の基幹統計化について

- 死因分類は経年的に変化していくものなので、統計の継続性・安定性という観点から、死因別の死亡率というのは基幹統計化にはなじまないと考える。

(ウ) 属性別生命表(配偶関係別生命表)、健康生命表及び結婚生命表の整備について

- 結婚生命表については興味ある分野であるが、現状においては、配偶関係別に婚姻が何年継続しているか等の情報がなく、直ちに作成することは困難と考える。また、健康生命表について、健康寿命はあまり伸びていない。将来的には考える余地があるが、現在の基幹統計化にする必要はない。
- 健康生命表については、「健康」という定義が難しいという根本的な問題もあり、作成自体に、まだ時間がかかるのではないかと。
- 健康衛生指標としての平均寿命が重要であったように、今後は、平均寿命に加えて、健康寿命が重要になってくるので、その作成及び活用についても検討は必要と考える。
- 健康生命表は、今後、非常に重要になってくるものであると考えられ、基幹統計化はともかく、今後とも、その作成について研究を進めていただきたい。

## 6 次回予定

次回部会は、平成23年1月7日(金)(16時40分開始予定)に、総務省第2庁舎6階特別会

議室で開催することとされた。

なお、次回の部会では、今回の審議で示された要検討事項及び答申案について、審議することとされた。

<文責 総務省政策統括官付人口・社会・農林水産統計担当統計審査官室／速報のため事後修正あり>